

# 中小規模団体の移動実態に 関する調査結果

令和7年4月  
内閣府規制改革推進室

# 調査概要

中小都市を中心に、移動の不足の実態やタクシー手配のしやすさ等を把握するため、中規模団体に居住する住民を対象にアンケート調査を実施するとともに、中小規模の地方公共団体に対してヒアリング調査を実施。

アンケート調査の結果については、地方においては郊外での不足が深刻であるとの声も踏まえ、回答者の自宅が市の中心部からどの程度離れているか、最寄りの公共交通機関の駅からどの程度離れているか別に結果を集計。

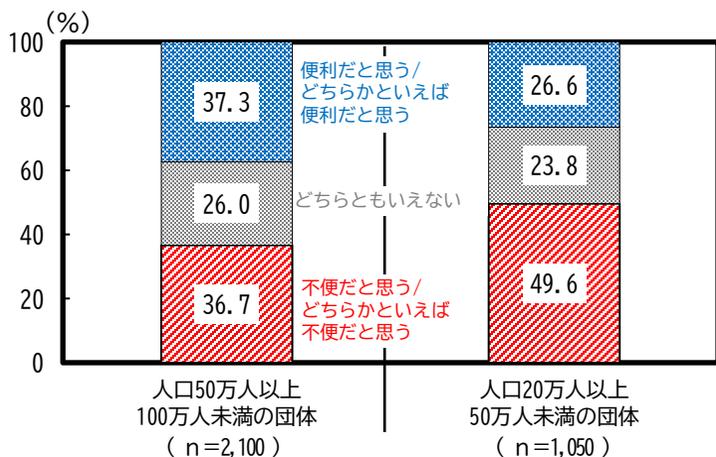
|                   | 対象者   | 有効回答数  | 調査期間                            | 調査方法   |
|-------------------|---|--|---------------------------------|--|
| 中規模団体<br>アンケート調査  | 中規模団体 14団体※の居住者<br>(人口20万人以上50万人未満：<br>7団体、人口50万人以上100万<br>人未満：7団体)<br>※全国7ブロック毎の人口がお<br>おむね20万人以上50万人未満<br>の団体、人口50万人以上100万<br>人未満の団体のうち、それぞ<br>れ人口数が中位程度に位置す<br>る団体を調査。 | 3,150件<br>a. 人口20万人～50万人未満<br>1,050件(1団体あたり、最<br>寄り駅からの徒歩距離10分<br>未満、10分以上20分未満、<br>20分以上で各50件計150件)<br>b. 人口50万人～100万人未満<br>2,100件(1団体あたり、最<br>寄り駅からの徒歩距離10分<br>未満、10分以上20分未満、<br>20分以上で各100件計300<br>件) | 令和7年3月25日(火)<br>～4月1日(火)        | インターネットによ<br>るモニターアンケー<br>ト調査を民間調査会<br>社に委託            |
| 中小規模団体<br>ヒアリング調査 | 対象者<br>中規模団体 14団体(人口20万人以上50万人未満：14団体)<br>小規模団体 14団体(人口20万人未満：14団体)   |  | 調査期間<br>令和7年2月4日(火)<br>～4月8日(火) | 調査方法<br>内閣府職員による自<br>治体職員への聞き取<br>り調査(電話・オン<br>ライン面談等) |

## 【結果概要】

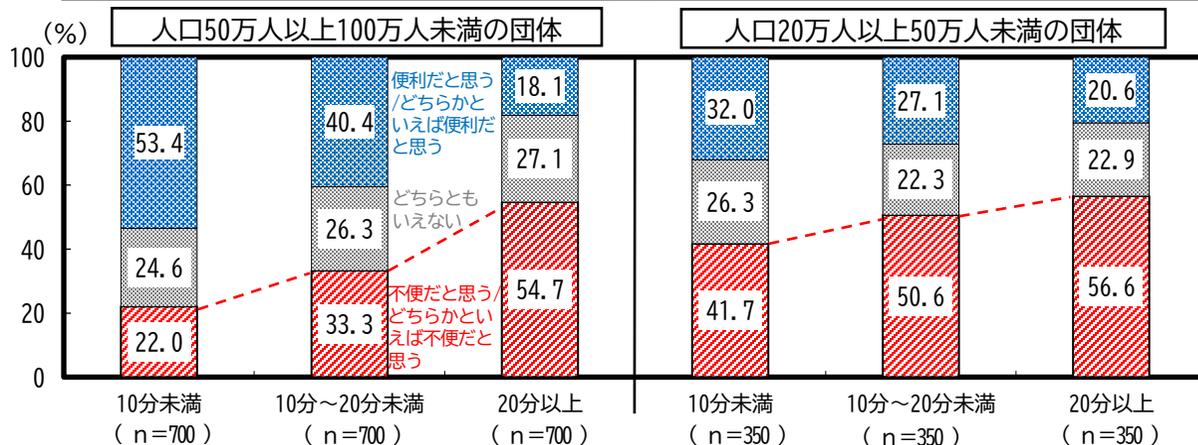
- 移動の不足やタクシー手配の困難度等は、人口規模が小さい団体に在住する人ほど、また、自宅が市内の中心部や最寄りの公共交通機関から離れている人ほど深刻である様子が窺える結果。
- 自治体へのヒアリングにおいても、特に郊外や夜間において移動の足が不足しているとの声が多く、日常的な移動手段が不足している様子が窺える。

- 地域の公共交通機関の利便性について、不便に感じている者は人口規模が小さい団体で高い（1図）。また、最寄り駅から自宅までの距離が遠くなるほど、不便に感じている者の割合が高まる。（2図）。
- 最寄り駅で停車する公共交通の便数が、減っている又は廃止されたと回答した者は、人口規模が小さい団体で55%程度（3図）。

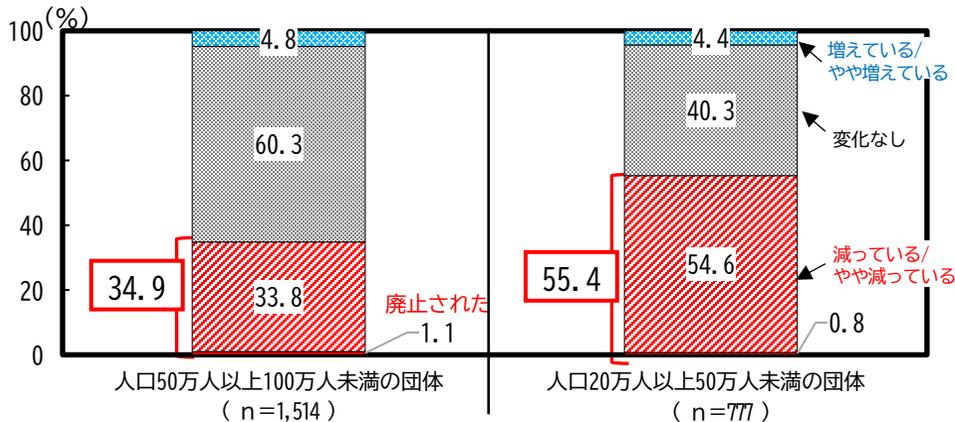
### 1図 居住する地域の公共交通の利便性



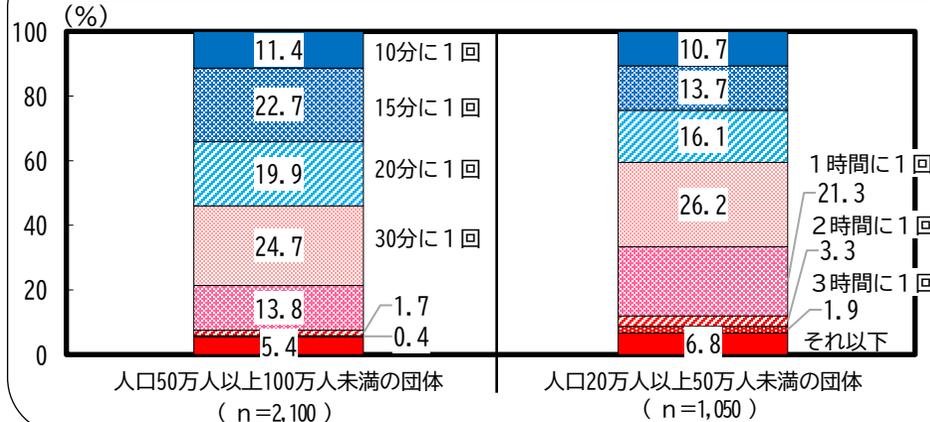
### 2図 居住する地域の公共交通の利便性（最寄り駅から自宅までの徒歩距離別）



### 3図 最寄り駅で公共交通機関が停車する便数の変化



### (参考) 最寄り駅で公共交通機関が停車する頻度

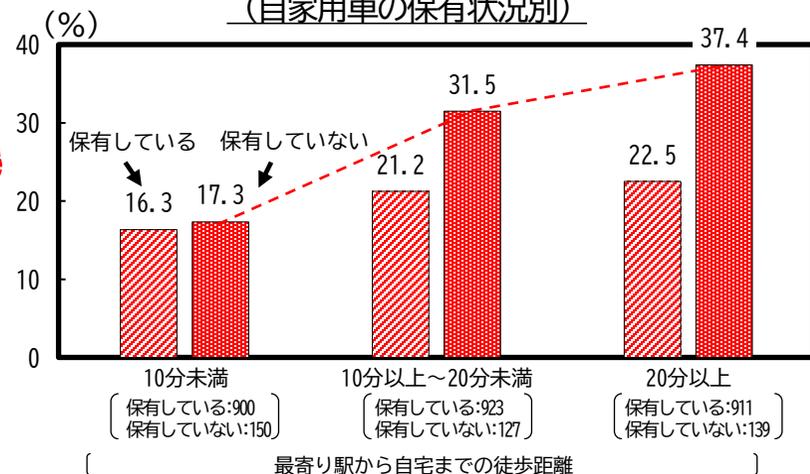
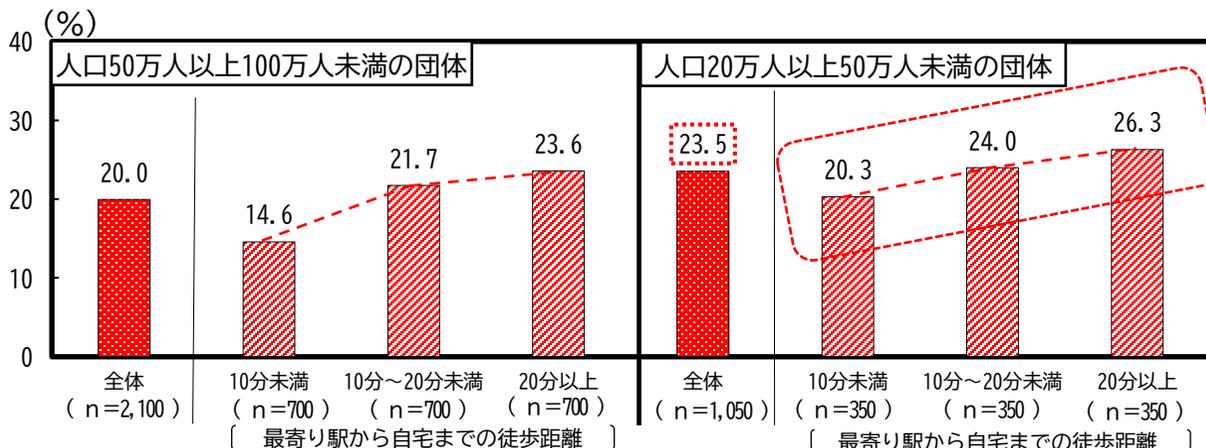


注) わからないと回答した者は除く

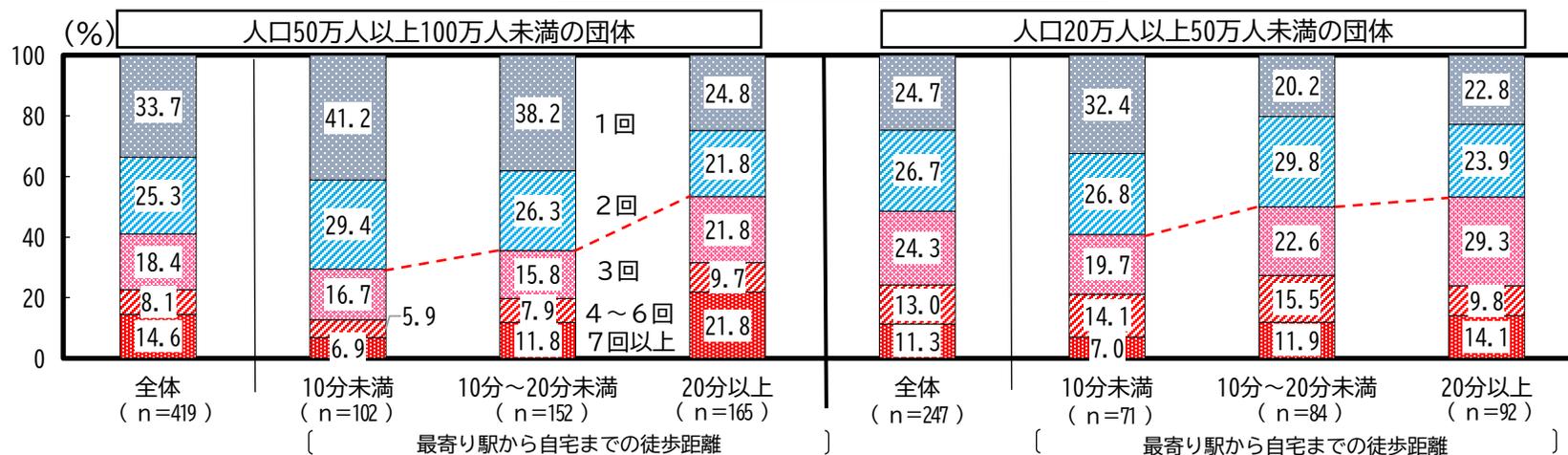
- 直近3か月間で移動の足に困った経験がある者は、人口規模が小さい団体の方が高く、最寄り駅までの距離が遠いほど高い（1図）。また、最寄り駅からの距離が遠いほど、自家用車保有者と非保有者の困難経験率に差が生じる（2図）。
- 移動の足に困った経験の頻度をみると、3回以上と回答した者の割合は人口規模が小さい団体の方が高く、最寄り駅までの距離が遠くなるほど高い（3図）。

### 1図 直近3か月間で移動の足に困った経験がある者

### 2図 直近3か月間で移動の足に困った経験がある者 (自家用車の保有状況別)

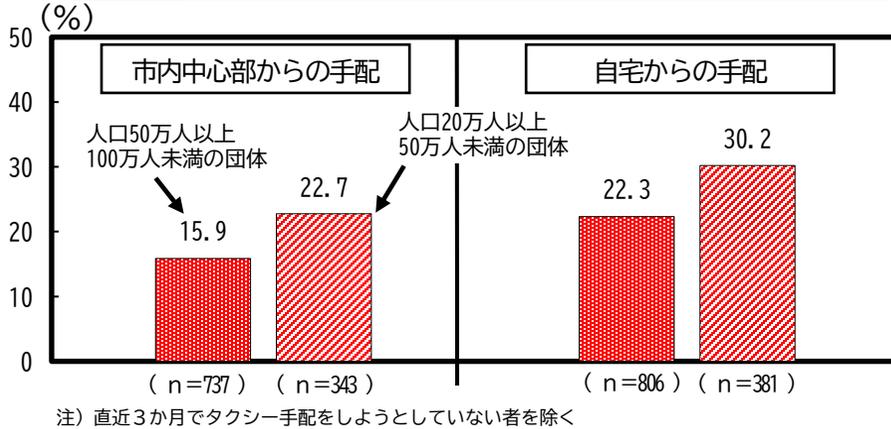


### 3図 移動の足に困った経験の頻度

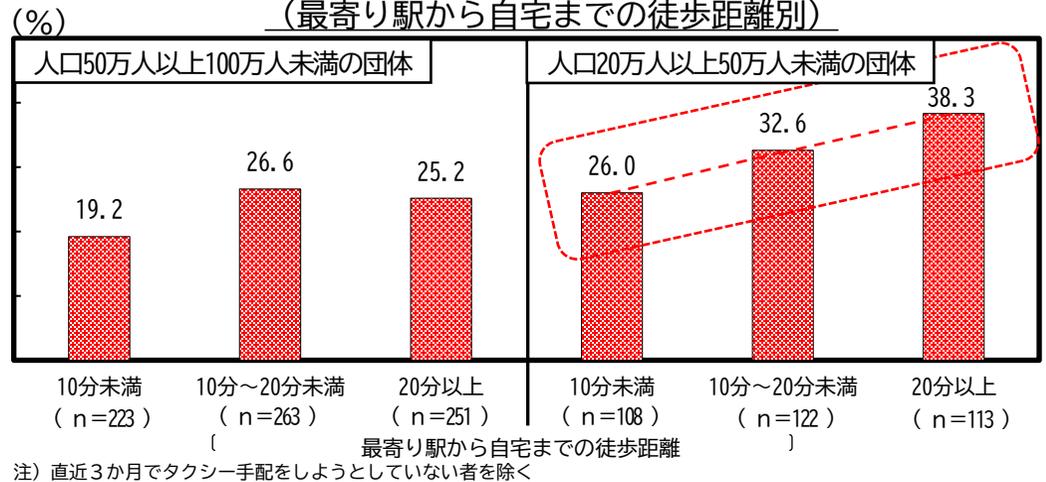


- タクシー手配に困った経験がある者は、市内中心部からの手配時より、自宅からの手配時で高い割合（1図）。また、自宅からの手配時の困難経験率は、人口規模が小さい方が高く、最寄り駅からの距離が遠い人ほど高い傾向（2図）。
- 困難の内容を見ると「配車を断られた」とする者の割合が自宅からの手配時で高く（3図）、また、最寄り駅からの距離が遠くなるほど「配車を断られた」割合が高まる（4図）。

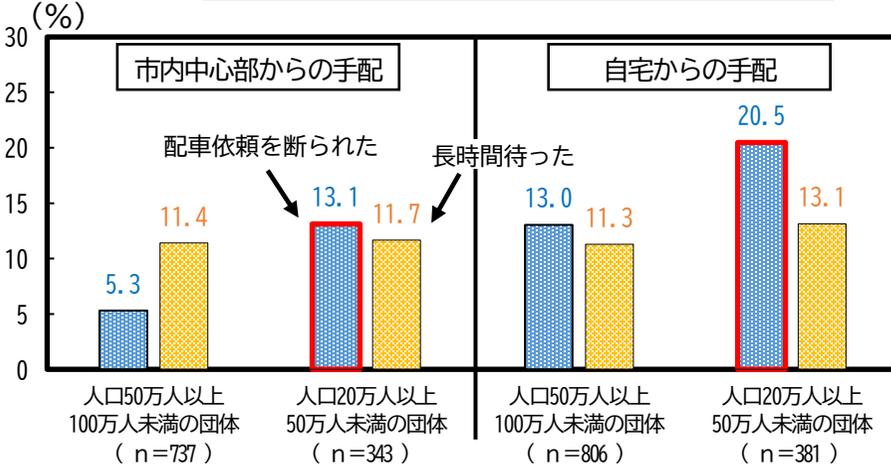
### 1図 タクシー手配時に困難を経験した者の割合



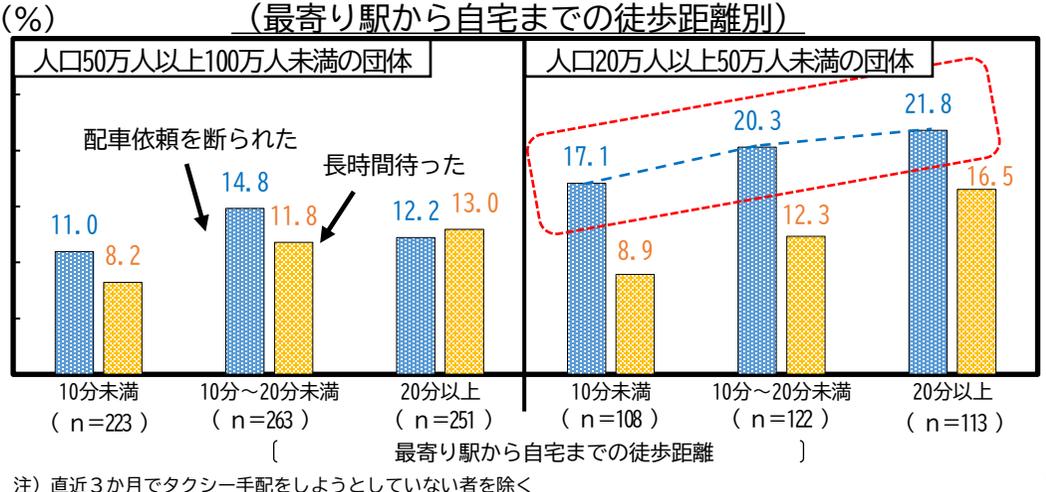
### 2図 自宅からのタクシー手配時に困難を経験した者の割合（最寄り駅から自宅までの徒歩距離別）



### 3図 タクシー手配時に困難を経験した内容

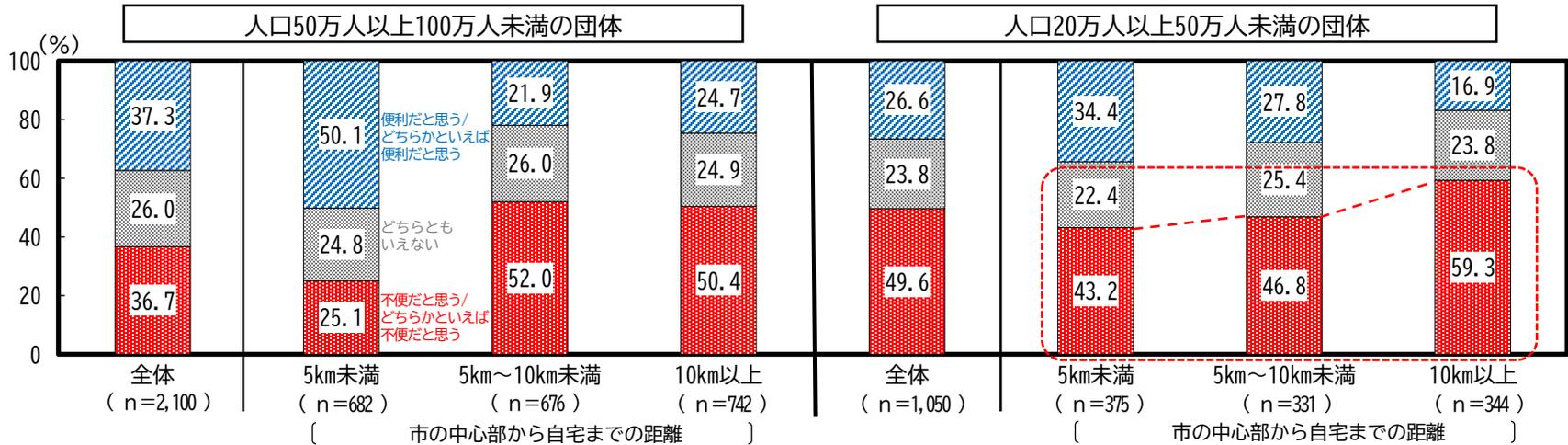


### 4図 自宅からのタクシー手配時に困難を経験した内容（最寄り駅から自宅までの徒歩距離別）

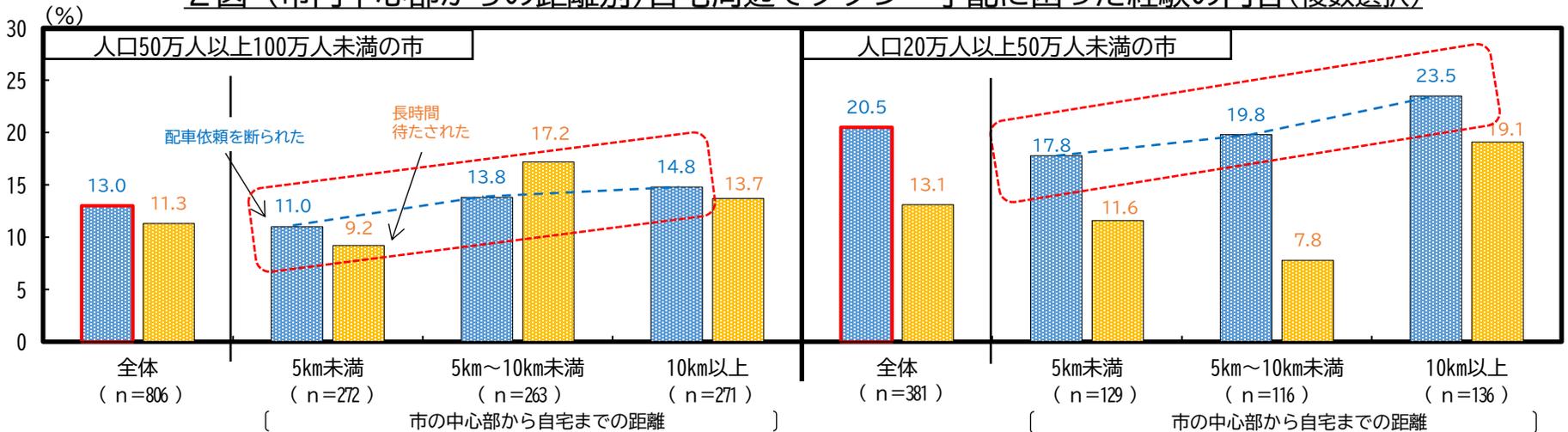


- 市内中心部から自宅までの距離が遠くなるほど、公共交通の利便性が悪いと回答する者の割合、自宅周辺でタクシーを手配した際に「配車を断られた」割合が高い傾向。また、これらの割合は、人口規模が小さい団体で高い傾向。

1 図 (市内中心部からの距離別)自身の地域の公共交通の利便性



2 図 (市内中心部からの距離別)自宅周辺でタクシー手配に困った経験の内容(複数選択)

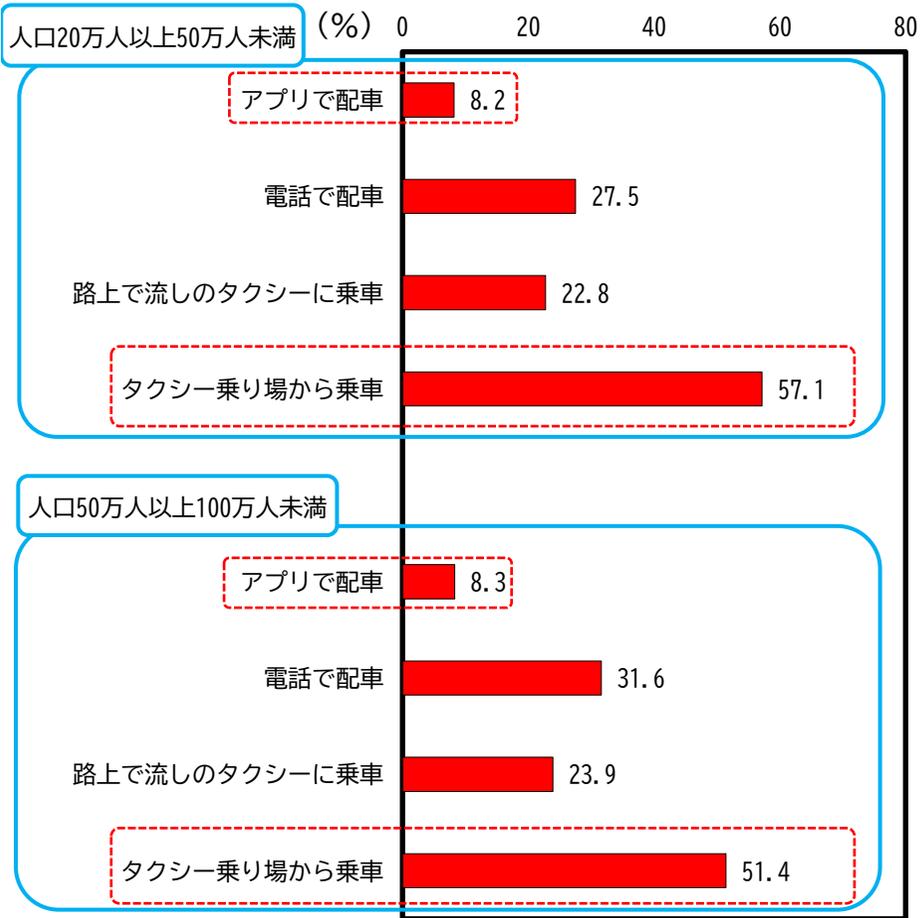


注) 直近3か月でタクシー手配をしようとしていない者を除く

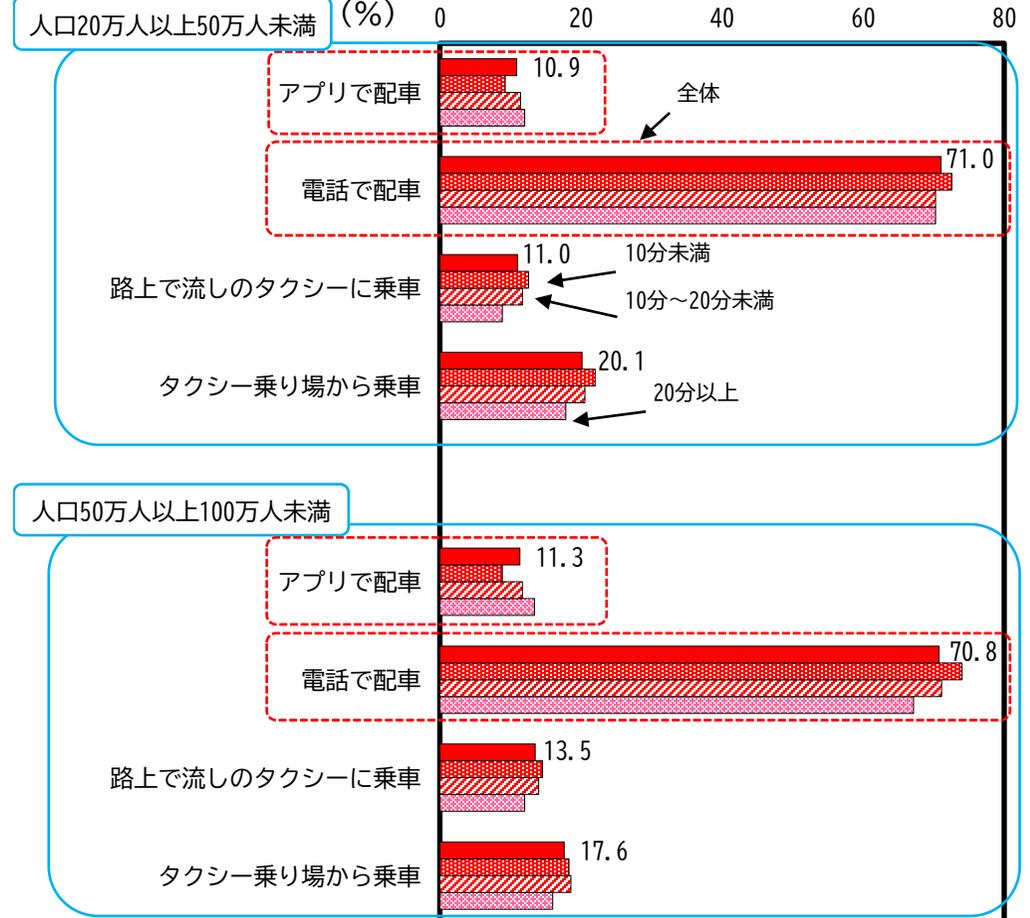
- タクシー配車の依頼方法について、人口規模に関わらず自宅周辺、市内中心部ともにアプリが1割程度と最も低く、自宅での配車では電話が7割強、市内中心部ではタクシー乗り場からの乗車が5割半ば程度で最も高い。

### 図 タクシー配車の依頼方法

#### 図-① 市内中心部からの手配



#### 図-② 自宅周辺からの手配



n = 3,150 (人口50万人以上100万人未満の団体: 2,100(10分未満: 700、10分以上~20分未満: 700、20分以上: 700)、人口20万人以上50万人未満の団体: 1,050(10分未満: 350、10分以上20分未満: 350、20分以上: 350))

# 中規模（人口20万～50万人）団体の足不足の状況 （ヒアリング結果）

## 北海道

【中規模団体①】 人口：約30万人

- 雪の時や年末年始にはタクシー需要が高まり、タクシーが捕まりづらい状況が発生する。
- 郊外は、タクシーが来れない状況やバスが減便になってしまっている。

【中規模団体②】 人口：約25万人

- 中心部は公共交通機関が充実しており、あまり困っていない認識。中心部はタクシーも不足はしていない。
- 郊外の中山間地域は公共交通機関の本数が少ないため、車移動がメイン。郊外はタクシーが1社しか運行していないため、ほぼ捕まらない。

## 東北

【中規模団体③】 人口：約25万人

- 中心部、郊外に関わらずタクシー不足は発生していない認識。
- 一家に一台は自家用車を保有しており、車移動が主。車を持たない学生や高齢者は家族が送迎対応をしている。

【中規模団体④】 人口：約30万人

- 中心部ではタクシーは夜間もあり、普通に捕まる状況。
- 郊外の一部地域では平日朝夕は配車が間に合わなくて断っているという話を聞いている。他の地域では、夜間にタクシー会社がやっておらず、不便。

## 関東

【中規模団体⑤】 人口：約25万人

- 郊外では公共交通機関の便が少なかったり、バスがない地域もあり、どうかしてほしいという声がある。
- タクシーの需給に関して事業者に聞き取りをした限りでは、不足は感じていない。郊外では、タクシーの配車に時間を要している。

【中規模団体⑥】 人口：約35万人

- コロナ後、バスは減便しているが最小限にとどめており、深刻な影響はない状況。
- タクシーはドライバーの高齢化により深夜は稼働が少なく、特に郊外は捕まりづらい。

## 中部

【中規模団体⑦】 人口：約40万人

- 中心駅から放射線状にバス等を整備しており、駅や停留所から離れた地域では乗合タクシーを導入しているが、事前に予約が必要だったり使い勝手が悪いという声がある。
- 中心駅から離れるとタクシーが捕まりづらくなる。また、夜間には中心駅にタクシー待ちの行列ができることもある。

## 中部

【中規模団体⑧】 人口：約40万人

- 中心部は交通機関が充実しており、移動手段は確保されている。
- 中心部以外では、営業所との距離が遠い場合、タクシー配車依頼から配車まで30分以上かかることがある。

## 近畿

【中規模団体⑨】 人口：約35万人

- 人口減少で郊外では、バスの減便・廃止が進行しており、移動に困っていると聞く。
- タクシーは、朝8～9時に地域・場所に問わずに捕まらないタイミングがあり、病院へ行く際に困ることがあると聞く。

【中規模団体⑩】 人口：約35万人

- 中山間地域は公共交通機関が行き届かないところも多く、対策としてコミュニティバスを導入している。
- ドライバーの高齢化で夜間・深夜は稼働が少なく、タクシーが捕まらない。営業所から離れた中山間地域は特にタクシー不足が厳しい。

## 中国・四国

【中規模団体⑪】 人口：約30万人

- バスは運転手不足で、毎年前年の10%近くが減便。路線も本数もスカスカ。コミュニティバス・デマンドタクシーを12地域で実施しており、今後拡大していくことを検討している。
- 郊外の団地・住宅地から中心市街地へのタクシーは捕まりにくいと聞く。

【中規模団体⑫】 人口：約50万人

- 郊外で公共交通機関が少ないところでは、特に免許返納した高齢者が不足で困っていると聞く。
- 郊外はタクシーを呼んでも1時間ほど待たされるケースが多い。

## 九州

【中規模団体⑬】 人口：約40万人

- 郊外では、日常生活の通院・買い物等の時の足不足の声が出ており、中心部では、夜間、飲み会のあとや飲食店で働いている方から足不足の声が出ている。
- 合併した町等でコミュニティバス等を運行しているが、足不足の声を聞くのもそのような合併した町や、元々あった市の郊外が多い。

【中規模団体⑭】 人口：約40万人

- 中心部ではタクシーが夜間も含め十分足りている。一方で、郊外の観光地では、ホテル・旅館や飲食店からタクシーが来ないという声がある。
- 特に月曜日の朝、通院等の際にタクシーが不足している。

# 小規模（人口20万人未満）団体の足不足の状況 （ヒアリング結果）

## 北海道

【小規模団体①】 人口：約10万人  
○金曜日、土曜日の飲み帰りの移動の足不足が発生。バスの最終便が22時台で終わり、タクシーが捕まらない。  
○オーバーツーリズムで、地域住民がバスに乗れないことがあるが、ドライバー不足でバスを減便せざるを得ない状況。

【小規模団体②】 人口：約8万人  
○ドライバーが減少していることが特に大きな問題であり、タクシーは今はまだ捕まるが、年末年始や深夜の時間帯が足りない状況と聞く。  
○デマンドタクシーの実証実験を行おうとしたが、コロナ禍でドライバーが確保できず、断念してしまった。

## 東北

【小規模団体③】 人口：約7万人  
○中心部では、AIデマンドを導入しており、交通手段は比較的充実している。郊外は交通手段が少ない地域もあるため、移動に困っているという声を聞く。  
○タクシーは中心部は深夜、郊外は時間帯問わず足りていない状況。

【小規模団体④】 人口：約7万人  
○タクシー会社がない地域(全9町のうち3町)では、隣町から呼ぶことになるが断られることもある。そのうち1町では、昼間の病院通いにも支障がある。  
○タクシーはドライバーの高齢化により、夜間に対応ができない。昼間はタクシー会社がある町内では30分程度で乗車できる状況。

## 関東

【小規模団体⑤】 人口：約9万人  
○バスが減便傾向。市内全体的に公共交通機関が少ないエリアがあり、移動に困るという声。  
○タクシーは駅前はあるが、朝・晩の利用者が多い時間帯や悪天候時は行列ができることがある。場所に関わらず、流しのタクシーは捕まえづらい。

【小規模団体⑥】 人口：約19万人  
○近年、バスの減便・廃止がされており、タクシーは、営業所から離れている地域で困っているという声を聞く。  
○平日・休日問わず、8時～12時、15時～17時、金曜日・土曜日の24時～25時台が特にタクシーが足りていない。

## 中部

【小規模団体⑦】 人口：約8万人  
○タクシーについては夜間に特に捕まらないが、町内にタクシー会社がない町だと昼間であってもタクシー確保が難しい状況。  
○山間部では、バス停までの距離が遠く、移動に困っている。

## 中部

【小規模団体⑧】 人口：約5万人  
○住民からバスの本数が少ないという声を聞く。  
○夏（7～8月）は観光客がタクシーを貸し切りにしてしまい、タクシーが捕まらなくなる。

## 近畿

【小規模団体⑨】 人口：約8万人  
○コミュニティバスを走らせているが、移動の足不足を聞くことがある（バスの本数が少ない、日中、買い物に行きたい時にタクシーが捕まらない、電話で配車しようとするが断られる等の声）。

【小規模団体⑩】 人口：約12万人  
○22時頃にJRが終わるため、特に夜間の住民の帰宅やホテルへの移動の足が不足している。観光協会やホテル・旅館から、郊外の観光地付近の宿泊施設から市街地の飲食店や駅の間の足が不足しているとの苦情を受ける。  
○木曜日・金曜日・土曜日の20時～24時のタクシー不足が顕著で、3分の1ほど配車依頼を断っているという調査結果もある。

## 中国・四国

【小規模団体⑪】 人口：約11万人  
○タクシー会社が北側に集中しており、南側に1社あるが、中間地にはなく、タクシー配車依頼をされても断っていると事業者側から聞いている。  
○バス停までの距離が遠く、利用が不便であるという声がある。

【小規模団体⑫】 人口：約15万人  
○中心地は日中は移動の足が足りているが、夜間は移動需要に対応できていない。  
○中心地から離れていくと、日中でも病院や買い物等の際の移動の足がないと聞く。

## 九州

【小規模団体⑬】 人口：約7万人  
○バス・タクシーとも運転手不足の声を聞く。  
○市街地で週末の飲み帰りにタクシーが捕まらないという話は聞く。  
○AIオンデマンド交通の導入を検討中で、2・3号の導入検討に至っていない。

【小規模団体⑭】 人口：約7万人  
○中心部は公共交通機関が充実しており、移動の足不足の声はあまり聞かない。  
○郊外はドライバー不足や利用者の減少でバスの廃線が起きており、移動に困っているという声がある。  
○タクシーは中心部・郊外ともにそこまで待つことなく乗れる状況。